

# VOICES from the ARCTIC

Vol.27 / 2023.7.11

ArCS II 国際政治課題  
北極域実践コミュニティ事務局



## 北極海の海氷の減少と猛烈な嵐により、キバリナ・サーチ & レスキュー隊は気候災害から島を守るために戦う



アラスカ全土のイヌピアック族、ユピック族、ウナンガン族のコミュニティでは、先住民政府、非営利団体、猟師、ファーストレスポナーたちが、今日の気候変動による災害に備えて長い間準備をしてきた。沿岸のモニタリングから移転計画まで、彼らはさまざまな取り組みを行ってきたが、州や連邦政府の支援プログラムは資金不足で、今日の課題の規模に見合った体制が整っていない。人口500人のイヌピアック族のコミュニティであるキバリナは、何十年もの間、気候に起因する浸食や洪水に対処してきた。20年近く前、米国政府が「差し迫った危険」に直面していると判断した4つの村のひとつだった。2009年にはさらに27の村がリストに加えられた。記事参照：Arctic sea ice loss and fierce storms leave Kivalina Search and Rescue fighting to protect their island from climate disasters - ArcticToday (2023.5.2/Arctic Today)

## 小さくても粘り強い：北極圏の高山植物はエンジニアであり、警鐘でもある



北極圏や標高の高い山の風景といえば、果てしなく続く雪や氷、むき出しの岩を思い浮かべる人が多いだろう。しかし、このようなドラマチックな場所にも、時には幅数ミリのパステルカラーの花が咲いている。この小さな花々は、地球上で最も過酷な生息環境を乗り切るだけでなく、他の生物種のために景観を整備することもできるのだ。

記事参照：Tiny but tenacious: arctic-alpine plants are engineers and warning bells - ArcticToday (2023.5.25/Arctic Today)



Purple saxifrage, snow pearlwort and drooping saxifrage (left to right). Sarah Watts, Author provided

## アラスカLNGプロジェクトが環境被害に関する法的課題をクリア



米連邦控訴裁判所は27日、アラスカのノース・スロープから天然ガスを州内全域に移動させる390億ドルのプロジェクト建設に必要な連邦政府の承認に異議を唱える環境保護団体の訴えを退けた。コロンビア特別区連邦巡回控訴裁判所の3人の裁判官は、州営のアラスカ・ガスライン開発公社のプロジェクト計画に対する米連邦エネルギー規制委員会の審査は、主要な提案の環境への影響を厳しく検討するという国家環境政策法の要件を満たしており、承認は天然ガス法やその他の法律を遵守していると述べた。

記事参照：Alaska LNG project clears legal challenge over environmental harms - ArcticToday (2023.5.17/Arctic Today)



This illustration shows what a proposed liquefaction plant at Nikiski could look like. (Source: Alaska LNG)

## マイクロプラスチック：北極圏の海洋生物にとって不可欠な氷の藻類から、驚くべき量が検出された



北極の氷の藻類に驚くべき量のマイクロプラスチックが含まれていることが発見された。メロシラ・アークティカの1㎡あたり平均31,000個のマイクロプラスチック粒子が発見されたのだ。粒子のほとんどは非常に小さく（10μm以下）、様々な種類のプラスチックが含まれていた。氷の藻の汚染は、生態系や気候に大きな影響を及ぼす可能性がある。記事参照：Microplastics: we've found startling quantities in the ice algae that are essential for all Arctic marine life - ArcticToday (2023.5.11/Arctic Today)

## 北極圏で増える森林火災が、地球温暖化をさらに加速させる：研究結果



北極圏にある森林や泥炭地はこれまで、大気中の二酸化炭素を吸収して封じ込める役割を担っていた。しかし気候変動の影響により森林火災が多発するようになり、結果として北極圏そのものが二酸化炭素供給源に変わる恐れがあるという。

記事参照：北極圏で増える森林火災が、地球温暖化をさらに加速させる：研究結果 | WIRED.jp (2023.5.26/WIRED)

## アングル：機能低下の北極評議会、口と協力停止 高まる氷解リスク

北極評議会は30年近くにわたり、冷戦後の協力関係の成功例として知られてきた。ロシアや米国を含む加盟8カ国は、気候変動に関する研究や、生態系に注意を要するこの地域の社会開発で協力してきた。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻を受け、加盟国はロシアとの協力を中止。北極の海岸線の半分以上を占めるロシアと協力できない以上、北極評議会の存在意義が脅かされかねないとの懸念が専門家間で高まっている。

記事参照：アングル：機能低下の北極評議会、口と協力停止 高まる氷解リスク | ロイター (reuters.com) (2023.5.10/REUTERS)

## 議長国、ロシアからノルウェーに 「存続の危機」 回避— 北極評議会

米国やロシアなど北極圏8カ国による多国間協力の枠組みである北極評議会は11日、輪番制の議長国がロシアからノルウェーに交代したと発表した。ウクライナ侵攻を巡って他の加盟国と対立するロシアが議長国交代を拒否すれば、評議会の存続が危ぶまれる事態になりかねないと懸念されていたが、その「危機」は回避された形だ。

記事参照：議長国、ロシアからノルウェーに 「存続の危機」 回避—北極評議会：時事ドットコム (jiji.com) (2023.5.11/時事ドットコム ニュース)

## グリーンランド、究極の独立のための憲法草案



2016年11月、グリーンランドの議会であるイナツィサルトウトの歓喜に満ちた多数決により、将来の独立グリーンランドのための憲法草案作成が開始された。ラース・エミル・ヨハンセン議会議長は、議会下の議場で党員とともに陽気な政治賛歌を歌い、この出来事を祝った。憲法委員会の設立は、デンマーク王国の一部である現在のグリーンランドと、最終的に自由で主権を持つグリーンランド国家を隔てる、もう一つの重要な足がかりと見なされた。グリーンランドの大多数の議員にとって、憲法の起草は、1979年のグリーンランド自治協定に従ったものであり、それは2009年にさらに拡大された。

記事参照：Greenland drafts constitution for its ultimate independence - ArcticToday (2023.5.17/Arctic Today)

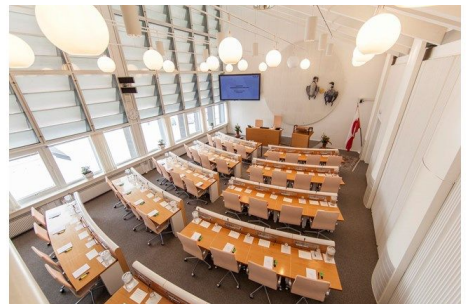


Photo of the Inatsisartut (Greenland's Parliament). Photo: Inatsisartut

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

### 【編集後記】

Vol.27は、2023年5月のニュースを掲載しています。

長らく開催が危ぶまれてきた北極評議会の会合が、現地参加（ロシア）とオンライン参加（北極圏7か国）のハイブリットで開催され、議長国がロシアからノルウェーに引き継がれました。北極評議会は存続の危機をとりあえず脱しましたが、通常の状態に戻ったと言える状況にはなく、ノルウェー議長国の今後の舵取りが注目されます。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局  
監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）  
E-mail：[tdcop@arc.hokudai.ac.jp](mailto:tdcop@arc.hokudai.ac.jp)  
WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

